

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 8月 30日

【評価実施概要】

事業所番号	0170100861		
法人名	有限会社 ラ・ヴィ		
事業所名	グループホーム ソレイユ		
所在地	札幌市中央区南7条西1丁目1-1 (電話) 011-551-1400		
評価機関名	(有)ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成20年8月25日	評価確定日	平成20年9月22日

【情報提供票より】 (20年8月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年 3月 1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	21 人	常勤	21人 非常勤 0人 常勤換算 16.96人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	5階建ての	2～4	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	61,000～65,000 円	その他の経費(月額)	光熱費25,000 円	
			(11～3月)	10,000 円
敷金	(有) (90,000 円) ・ 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	370 円	昼食	530 円
	夕食	500 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 1,500 円			

(4) 利用者の概要 (8月10日現在)

利用者人数	26 名	男性	11 名	女性	15 名
要介護1	2 名	要介護2	5 名		
要介護3	10 名	要介護4	7 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 80.65 歳	最低	55 歳	最高	89 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	石山通内科クリニック 南札幌病院 札幌外科記念病院 ドゥケア歯科矯正歯科クリニック
---------	--

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

交通量の多い道路に面した都心部にあるホームである。1階は併設クリニックとデイサービス跡の多目的ホール、2～4階はグループホームと介護付き有料老人ホームが隣接している。特徴は、医療処置が必要な利用者も積極的に受け入れ、併設クリニックが利用者の健康管理を行ない、医療と連携した介護サービスが提供されている。また、利用者は医療処置を受けながら、外出行事やホーム内レクリエーションにも積極的に参加している。若い職員が多く、グループホームやクリニック、老人ホームとの協力体制が、利用者の個別の要望にも対応し、「家族になろう」の運営理念の下、運営者はじめ職員や利用者がともに支え合いながら家族のように暮らしている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価の外部研修への取り組み状況は、職員の外部研修参加の機会を増やしているが、入社年数の若い職員にまでは至っていない状況なので、引き続き、取り組みの強化を期待したい。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	「自己評価表作成週間」を設け、ガイドブックを参考に外部評価の意義や目的を理解し、ユニットリーダーが中心となり職員全員で、評価項目の点検に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は平成18年から開催し、現在は3ヵ月毎にホームの状況報告を行ない、意見交換をしている。最近では、構成メンバーの方に、ホーム内レクリエーションや避難訓練などに参加や見学をしていただきながら、ホームでの生活を知っていただき、率直な質問や意見、要望などをサービスの向上に活かせるよう取り組んでいる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	ホーム便りを毎月作成し、利用者の近況報告や健康状態、ホームからのお知らせを掲載し、金銭出納明細や写真を同封して送付している。家族来訪時や電話での報告をきめ細かく行っており、受診の際はクリニックの医師や看護師から報告している。また、家族会を設けて、意見や要望を話せる機会を作っている。重要事項説明書に第三者の苦情相談窓口を明記している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入しており、今年度は管理者が会計監査役員として活動し、町内会行事のお手伝いなどして交流を深めている。商店街の夏祭りやホームのお祭り、新年会などの行事には双方向的な関係が築かれ、敬老の日には子ども会からお花のプレゼントをいただき、お菓子のお返しを行ったりしている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームの運営理念「家族になろう」は、利用者やその家族、職員が力を合わせ支え合いながら、ホームの中で家族のように生活し、地域住民の方々との理解や友好な関係を深めていくことを目指している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営理念は新人職員教育で説明し、朝礼やミーティング、内部研修で話し合いや確認している。各ユニットに運営理念を掲げ、常に意識しながら介護している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入しており、今年度は管理者が会計監査役員として活動し、町内会行事のお手伝いなどして交流を深めている。商店街の夏祭りやホームのお祭り、新年会などの行事には双方向的な関係が築かれ、敬老の日には子ども会からお花のプレゼントをいただいている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	「自己評価表作成週間」を設け、ガイドブックを参考に外部評価の意義や目的を理解し、ユニットリーダーが中心となり職員全員で、評価項目の点検に取り組んでいる。また、利用者へのサービスに活かされるよう意見を出し合い、改善にも取り組んでいる。		

札幌市中央区 グループホーム ソレイユ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は平成18年から開催し、現在は3ヵ月毎に、ホーム内レクリエーションや防災訓練などに参加や見学をしていただきながら、ホームの状況報告を行ない、そこでの意見や質問、要望などをサービス向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者には、ホーム運営でわからないことがあると、連絡を密にしアドバイスを受けている。区の管理者会議や運営推進会議においても区や包括支援センターの担当者と情報交換を密にしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム便りを毎月作成し、利用者の近況報告や健康状態、ホームからのお知らせを掲載し、金銭出納明細や写真を同封して送付している。家族来訪時の報告、電話での報告をきめ細かく行なっており、受診の際は、クリニックの医師や看護師から報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に、家族の方々にも参加をしていただき、引き続き家族会を設けて、意見や要望を話せる機会を作っている。来訪時や電話での家族の方々の様子から、不満を察知し意見をいただけるよう配慮している。重要事項説明書に第三者の苦情相談窓口を明記している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	隣接する老人ホームやユニット間での職員異動時には、利用者への挨拶やいつでも会えるよう配慮し、引継ぎを十分に行なっている。職員の離職の場合は、利用者が寂しがったりするなどの影響がないよう自然に経過するよう配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営法人内の研修会を、毎月、全員参加で実施し、様々なテーマで50回以上行なっている。また、段階に応じた育成計画を作成し、外部研修にも参加しているが、入社年数が若い職員は外部研修参加の機会が少ない状況である。	○	入社年数の若い職員が、年1～2回程度、外部研修にも参加し、その知識をほかの職員に還元するような取り組みの強化を期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	区のグループホーム職員研修会や管理者会議、男性職員の「男しゃくの会」などに参加し、職員間の交流を深めている。また、当ホームの医療分野の知識をほかのホームに提供したり、症例報告をして勉強している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入院先から入居となる場合がほとんどであり、ホームの看護師が病院に何度か伺い、また、家族の方々や可能であれば利用者もホーム見学をしていただいている。入居時には入院先の馴染みの看護師が付き添い、不安を最小限にするよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は理念にも掲げているように、利用者やその家族とともに支え合いながら、家族のように生活することを目指している。介護度の高い利用者にも、出来ることを一緒に考え準備し、ともに参加して、協力し合える関係を築けるよう配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前に利用者や家族、病院関係者から情報を得て、入居時には詳細な基本情報シートを作成している。入居後もコミュニケーションを大切にして利用者のニーズを捉え、情報を蓄積している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居時には病院関係者やケアマネジャー、家族からの情報を参考にして、暫定プランを作成しており、直ぐ支援できる体制にしている。入居後モニタリングを行ないながら、ユニット全体で意見交換を行ない、クリニックの医師や看護師の意見も踏まえて介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のフロー会議で利用者の変化や経過を話し合い、計画にズレが無いか確認している。3ヵ月毎にモニタリングを実施し、クリニックの医師や看護師の意見を踏まえて、ユニット全体で話し合い、介護計画の見直しをしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設するクリニックで様々な医療処置を受けながら、ホームでの生活が継続できるように支援している。自立歩行できない利用者にも、車椅子対応車を利用して、通院支援や積極的に外出支援を行なっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	日常の健康管理や医療処置（インシュリン注射・ストマ・バルーンカテーテル・胃ろう・在宅酸素など）は、併設クリニックの医師や看護師により、24時間体制で管理されている。入居前のかかりつけ医やほかの医療機関との連携、通院も支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期や重度化で入院中の方が、退院後、当ホームに入居し病院との入退院を繰り返すケースがほとんどなので、利用者や家族の方々の意向を聞き、医師・看護師・介護職員と話し合い、方針を決め支援している。緊急時は、近隣の総合病院との連携を図り、救急搬送の態勢も整えられている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	介護職員は、利用者と同じ目線で対話し、言葉かけに配慮して支援している。また、入社時に秘密保持の誓約書を提出している。個人情報には書庫に保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームでの基本的な1日のリズムはあるが、利用者一人ひとりの体調やペースを大切に見守りながら支援している。趣味活動や買物、散歩などの個別の希望には、ホーム内3ユニットと併設の老人ホームとの協力体制により支援できるよう配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の食べたいものを献立に取り入れて、満足してもらえることを大切に支援している。献立、買い出し、調理、片付けまでの一連の作業を家事の好きな利用者と職員で行ない、重症の利用者にも味見など出来ることで、お手伝いいただいている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週2回程、各ユニット毎の浴室で、1F多目的ホールの大きな浴室では月1~2回程、楽しく入浴できるよう支援している。入浴を拒む利用者が多いため、服を脱ぐ工夫や職員も一緒に入浴するなどの支援をしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの職業や趣味を活かして、生活の役割分担や行事の企画のお手伝いなどの出来ることを、利用者と相談しながら支援している。また、1F多目的ホールでは様々な楽しみごとを支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	様々な医療処置を受けながらの利用者も、おしゃれをして楽しめるよう積極的に外出支援をしている。動物園や喫茶店でのお茶会、とんでんツアーまた定山溪温泉足湯の計画など、家族の方々も現地で合流して、楽しんでいる。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者や職員は、鍵をかけることの弊害を十分理解しているが、ホームの立地場所が交通量や人通りが多く、不用心との家族の意見があり、玄関の施錠をしている。外出希望者には開錠し見守り支援している。		

札幌市中央区 グループホーム ソレイユ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	6月に利用者や家族、近所の方々が参加して、夜間を想定した避難訓練を実施している。災害時や事故発生時のマニュアルを作成し、フロアー会議で話し合いや訓練を行ない、安全対策の確認をしている。毎年2回、消防署に依頼して消防訓練・設備点検を実施している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食ごとの食事摂取量（主食・副食）や水分摂取量、排泄量をチェックしている。利用者の嚥下状態により、刻み食やとろみ食などに対応している。併設クリニックの看護師が利用者の食事状況を毎日観察し、状態変化の早期発見の支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間は、車椅子やストレッチャーの移動の支障になるため、調度品などは置けず、家庭的な雰囲気にならざるを得ない面があるが、壁にレクリエーションの写真や利用者の作品を飾り、また、観葉植物を置くなど工夫をしている。フロアーの片隅に1～2人でくつろげる空間をつくり、気の合う者同士が語り合い、過ごせるよう配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、利用者の馴染みの調度品や仏壇、神棚を配置している。また、じゅうたんを敷いている居室もあり、利用者と家族が相談し、利用者が安心して居心地よく過ごせる場所となっている。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。